

令和４年度 第１回 前橋市教育情報システム利活用推進委員会 会 議 録

日 時 令和４年７月５日（火） 午前１０時００分から

場 所 前橋市総合教育プラザ ６階 ６３研修室

出席者

No.	役職	氏名	備考 (利活用推進委員会内役職)
１	前橋市教育委員会 教育長	吉 川 真由美	委員長
２	前橋市教育委員会事務局 教育次長	藤 井 一 幸	副委員長
３	〃 指導担当次長	都 所 幸 直	副委員長
４	〃 参事兼総務課長	片 貝 伸 生	委員
５	〃 学校教育課 課長	相 原 吉 次	〃
６	〃 青少年課 課長	内 山 崇	〃
７	前橋市未来創造部 情報政策課 課長	岡 田 寿 史	〃
８	前橋市小学校校長会 会長 (前橋市立わかば小学校 校長)	岩 崎 博 文	〃
９	前橋市中学校校長会 会長 (前橋市立鎌倉中学校 校長)	木 部 悟	〃
１０	前橋市公立学校教頭会 会長 (前橋市立新田小学校 教頭)	今 泉 洋 一	〃
１１	群馬大学副学長（ＩＴ・データサイエンス担当） 兼 群馬大学数理データ科学教育研究センター長	浅 尾 高 行	〃 外部専門家
１２	前橋市教育委員会事務局 総務課副参事兼情報教育推進室 室長	古 暮 清 二	庶務
１３	〃 係員	竹 内 三 保	〃
１４	〃 係員	上ノ内 栄	〃
１５	〃 係員	清 水 亮 介	〃
１６	前橋市教育委員会事務局 前橋高等学校 事務長	伊 井 直 文	オブザーバー
１７	〃 総合教育プラザ 館長	金 井 幸 光	〃
１８	〃 総合教育プラザ 館長補佐兼教育研修センター所長	吉 野 雄一郎	〃
１９	〃 学校教育課 課長補佐兼指導係長	平 澤 英 夫	〃
２０	前橋市未来創造部 情報政策課 情報政策係 教育情報ネットワーク担当係長	大 塚 範 之	〃

総務課長	1 開会
教育長	2 挨拶 GIGAスクールが始まり、1年と3か月が経った。教育委員会も学校をサポートしてきたがここまで進んだのは学校側のチャレンジがあったからだと思う。いろんな変更があったがそれを一緒に乗り越えてきたことが今の学校の活用に繋がっていると思う。本日は現状と課題を共有すると共に今後について、いろんな意見を伺いたい。
総務課長	本日は外部専門家として群馬大学副学長兼群馬大学数理データ科学教育研究センター長の浅尾高行先生にご出席いただいている。 議会の委員長については、本委員会の設置要綱に基づき、教育長が行う。
情報教育推進室長	3 報告事項 (1) GIGA スクール構想の進捗状況について ア 令和3年度アンケート結果 資料1を基に説明
浅尾委員	開始から1年を過ぎ、フェーズ1からフェーズ2、次の段階に進んでいると思う。使えるようになり、さらに求めている物を提供するのが大事だと思う。アンケートの結果では、デジタル配信やアンケートの回収で使っていない方が半数いる。使っていない教員に対し、なんらかの手立てを取ることが必要となる。今までと同じように皆に案内をするのではなく、工夫する方が良いと思う。
前橋市中学校校長会会長	ミライシードとgoogleの利用状況及び必要と考えている機能等について、教員へ取った研修アンケートの結果を説明。
前橋市小学校校長会会長	デジタル配信についてだが昨年度保護者に保護者の端末でも見られることをお願いをする時に、情報漏えいについて、問い合わせたところ、そんなにお勧めではないという様子だった。児童生徒のiPadで見るのが基本との話だったが現在はどのようになっているか。 配信する時に画像を載せるのは許可がいるのかなど、そういうのはあるのか伺いたい。
情報政策課長	児童生徒のiPadで見るのが基本ということについては、基本は使いやすい方で閲覧するので良いと思う。 Classroomに掲載しているものが外部に漏れるかということだが、自分の端末でClassroomに入り、ダウンロードして保存することは防げないこともあり、自分の端末のアプリに入れて動かしてしまうという可能性もあることから、児童生徒用の端末を使うように話したかもしれないが、そもそも正しい使い方やリスク等を知らせずに児童生徒用の端末を使うようにというショートカット的な説明は、少し適切を欠いているかもしれない。正しくは将来的には児童生徒用の端末を取り上げて見るのではなく、家族でしっかりと会話をして、Classroomに保護者を招待するというような意味合いもこれからの社会で培っていく子供が理解してもらい、正しく招待し、招待された側も行動に対するリスクを認識して自分で規制し使うことが必要だ。規制は適切な機会を設け、あるいはそういったメッセージを利用者へ発信するということが情報政策課としては留意していきたい。

情報教育推進 室係員	イ 学校の支援体制 資料2を基に説明
前橋市小学校 校長会会長	G I G Aスクール運営支援センターにI C Tの活用について、校内研修の講師をお願いして非常に良かった。先日の自主校長会においてもどんどん利用してくださいという話をした。校内研修でI C Tを勉強する、少ない人数でも依頼できると聞いたので、これからも活用したい。
前橋市中学校 校長会会長	アンケートでも話したところだが、研修したいと思っているが活用のスキルが上がっていないという項目が明らかになっているので、絞って支援をお願いしたいと考えている。
前橋市公立学 校教頭会会長	1年生を中心として導入時にクラスに入ってもらった。子供達が使いたい、しかし、どうするのか分からないという難しいところを優しくサポートしてもらい、スムーズにできたと思っている。昨年度のように定期的に来るとなると学校の方で予定を立てながら進めないといけないという大変さがあったが、今年度はお願いするとすぐ反応してくれて、日程調整してくれるので、1年生は連続で3回目だが、また来てもらい、ソフトの使い方や授業の中での使い方、お便りの見方など基本的なところを教えてもらい、活用が進んでいる。
浅尾委員	人数が減ってしまったのは非常に残念だがG I G Aスクール運営支援センターを有効に使おうというところだと思う。最初、立ち上げのところから、いろんなものを導入してきて、維持することが中々うまくいかないというところだが、講習会等を含めオンデマンド化し、いつでも見られるような状況にしておき、見てもらった後にデモンストレーションを行うなどのやり方が良いかと思う。もしよかったら、配信の仕方やコンテンツを作っているもので使ってもらえればと思う。先生方のセミナー等に有効ではないかと思う。
教育長	浅尾先生にはG I G Aスクールが始まる前から相談に乗ってもらっているがG I G Aスクールが進んでくると、先生方個人のスキルや希望も様々になってくると思うが、今お話いただいたものも検討させていただく。
総合教育プラ ザ館長	現場の先生方のスキルアップということで先生方の負担軽減をどうするかと考えているが、総合教育プラザでは、短い時間でいろんな使い方を紹介する研修を午後4時位の時間から教育研修センターで行っている。
教育研修セン ター所長	総合教育プラザでは「つながるI C Tひろば」という名前で研修会をしている。なるべく先生方に負担がかからないように夕方の4時位から、20～30分程度の短い時間の中で参加できる形にしている。またいつでも見られるようにアーカイブを置いておき、必要な時にいつでも動画を先生方が見られるようにしている。反響としては参加した先生方は非常に勉強になったという感想をいただいている。校内研修のような形で1台を使って10人位で見ている学校もある。いろんな研修の形がある中で、「つながるI C Tひろば」もそういったいろんな研修の方法でできるというのが、先生方のいろんなニーズに応じられているのかなと思っている。 「まえばしG I G Aスクールひろば」内の「つながるI C Tひろば」をスクリーンに掲示

総合教育プラザ館長	中学校校長会会長が紹介したアンケートの結果の情報は、私たちがニーズに応じた研修をやっていくのにあたり、ありがたい。今後もニーズに応じた研修を実施していきたい。
教育研修センター所長	先生方のスキルも幅が出てくると思うので、ニーズに応じて見たいものを見られる工夫をしていきたい。
浅尾委員	コンテンツは誰が作ったのか。
総合教育プラザ館長	プラザで作成した。
浅尾委員	素晴らしいと思う。音声を入れるのが大変だと思うので、合成音声を作る仕組みを持っているので、それを使っていれば、原稿を書いておけば自動的に読み込んで音声を作ることができる。部分的にも使っていればと思う。
教育長	今後も先生一人一人のニーズに合った動画をアップしていただければと思う。
情報教育推進室長及び係員	ウ 学習者用端末の運用状況 資料3及び資料4を基に説明
市立前橋高校事務長	高校での端末の活用についてだが、今回のアンケートは高校が入っていないこともあり、今後どのように進めていけば良いのかなと思うところはある。基本的に県の教育委員会の関係で高校のデジタル教科書やスタディサプリなどをChromebookにより学習している。今年になってから、出席停止の生徒に対し、授業の配信を行うとのことで、なるべく行うよう進めている。端末の状況で繋がらなかったりする状況も多々あるが、なるべく進めており、また行事においても、一か所に集めず、教室で配信するような形なるべく端末を使っていくよう進めているところだ。
指導担当次長	市立前橋高校は昨年度にホームページが一新され、他の県立高校のホームページとは少し違い、大学のようなイメージのホームページを立ち上げた。そこにも紹介されているが、部活動の紹介の動画等をYouTubeにイチマルチャンネルという名前で運営している。英語の時間に生徒が作った動画をアップしているなど、ICTの活用がかなり進んでおり、外に対しての発信というところに市立前橋は力を入れていると感じている。高校生学習室が前橋駅前のアクエル前橋にあるが、そこに行って自主学習の様子を見てみると、いろんな高校の生徒たちがだいたいChromebookを開いて勉強している。 スクリーンに市立前橋高校のホームページを掲示
教育長	市立前橋高校は動画を生徒も先生も一生懸命に作って上げている。動画については視聴回数が少し前に67,000回再生されていた。多くの方が注目している。生徒のためにもなると思うので、今後もさらに発信を強化していただきたいと思う。
情報教育推進室長	4 検討事項 (1) 令和4年度の各部会の活動について 資料5を基に説明

浅尾委員	ぜひその内容で進めていただき、参考になることがあれば協議していきたい。
前橋市中学校 校長会会長	校務支援部会について、健康観察・出欠席連絡のデジタル化のところで、フォームを使っている事例は知っているのだが校務の効率化というところでは、C4 t hで出欠席、成績を管理しているので、保護者がフォームに入力するとそこまで反映されると本当の効率化が図れるなと思っている。
前橋市小学校 校長会会長	本校では昨年度の3月からデジタルで欠席報告をしている。学級通信で改めてQRコードを周知したところだ。C4 t hと連携できるのか。
情報教育推進 室長	校務支援ソフトとの連携は乗り越えていきたい課題ではあるが大きな壁がある。
前橋市小学校 校長会会長	ICT基盤整備部会の教職員端末の学校外での活用について、現在は校長の許可が必要だが、今後は許可なく使えるようにしていくのか。
情報教育推進 室長	許可は必要だと思うがより使いやすい環境を、持っていきやすい決まりを作ってみなさんに周知できればと考えている。
市立前橋高校 事務長	市立前橋高校でも出欠連絡、健康観察はgoogleフォームできめ細かくやっている。また教職員端末の校外の持ち出しについても校長先生にその都度、許可を受けている。簿冊に1回ごとに名前を書いて、校長先生の印を押して許可している。例えば、年度途中で1度、許可申請をして、1年間の利用計画を添付するなど、柔軟に出来たら良いのではないかと感じている。
指導担当次長	校外での活用についてだが、研修会の時に持っていくとの話があったが他にはどんなことが想定できるか。また市立前橋高校ではどんなことに活用しているか。
市立前橋高校 事務長	YouTubeのアップや生徒の成績入力という部分より、資料を作るなどに使っているようだ。高校の先生は出張が非常に多いが、出張先に持っていくというよりは週末に資料作成に使用していることを確認している。その他の使い方は確認していない。
指導担当次長	バスケットボール等の部活の大会の時に監督の先生がタブレットを持っているのを見る。そのタブレットの中に生徒のスコアが入っていて、個人の生徒のシュートの確率が出るので、そういった情報を見ながら作戦を立てるなどして使用する中学校の先生もいるのかなと思う。部活動の中での使用も考えられるのかなと思った。紛失や個人情報の扱いなどがあるので持ち出すにはルールをきちんと決めていくことが必要かなと思う。
前橋市公立学 校教頭会会長	ネットワークのことだが繋がりにくい時間帯があったり、コロナで学級閉鎖になった時にGoogleMeetで授業配信をし、子供に繋いだが途中で繋がらなくなったりとか、デジタル教科書も次のページにしようとする止まってしまったりとか未だに起こってしまうことがある。使い方が悪いのか課題が残っているのか授業に関わることでないので伺いたい。
情報政策課長	地域と時間帯による。例えば市役所近辺ではお昼時に通信速度が下が

	る。そういった事実が発生した時に時間帯と日時を記録しておき、それを情報政策課に送っていただければ、N T T ドコモにLTE回線の通信速度の調査依頼をかけて増強することができる。繋がらないから使わないではなくて、どんどん使って、繋がらない時間を洗い出して、それをN T T ドコモに改善してもらって、ちゃんと使える環境に整備してもらうという発想にしてもらえるとありがたい。情報政策課に情報がないので我々は正常に使えるものと思っているし、ドコモも使えるものと思っている。その前の段階であれば、ベネッセのデータセンターの問題であり、前橋市が全ての設備を持っているわけではなく、事業者のクラウドサービスを使っているの、使えないと言ってもらえれば、事業者に使えるようにしてくださいということができる。使えない日時を教えていただければと思う。
情報教育推進室係員	教員側も児童生徒用のタブレットもLTEで通信しており、電波の入りが悪いとの連絡を数件受け、N T T ドコモに入ってもらい、電波の増幅器を取り付けたり、また、市立前橋高校では朝の集会の時に動画の速度が極端に遅いとのことで、周波数を受け取る基地局との調整をしてもらったことがある。電波の不良を指摘していただくことで電波状況がどんどん良くなる。LTEの良さというものが本委員会でも度々話題に出るが、国の方でG I G Aスクール運営支援センターを始めた理由は、一般的な学校はWi-Fiの接続が多いのだが、例えば、Wi-Fiの電波のポイントの組み合わせで電波が重複して混線してしまうなどが多発し、それを解決するために技術的な支援をするスタッフを投入しようと補助金を設けた。本市はLTEの選択肢で進めているが、混線しにくい、電波状況の改善に自前のコストがかかりにくいなどの携帯電話の電波の利点を生かしている。電波状況が悪いなどの情報があれば総務課又は情報政策課に連絡いただきたい。
情報教育推進室長	(2) 令和4年度アンケートの実施について 資料6を基に説明
市立前橋高校事務長	アンケートは小中対象だが市立高校向けにアンケートを考えていただけないか。
情報教育推進室長	考えていきたいと思う。項目自体も統一する必要がある。県で実施しているアンケートがあれば参考にしたい。
市立前橋高校事務長	県のアンケートは把握していない。教師側の要望も出ているので、アンケート案ができたから見せていただき内容を一緒に検討したい。
教育長	学校と教育委員会とアンケート内容を十分に検討して、ぜひ実施して、より活用が進むようにできればと思う。
情報教育推進室長	(3) 次期基盤の整備に向けて スクリーン掲示の資料を基に説明。
情報政策課長	基盤についてだが、新しい環境のことであれば、物理的にハードウェアを入れ替えるとか、置いている情報の場所を変えろという発想になりがちだが、5年後、子供達が効果的に学習できる環境を届けるには自分たちが働きやすい環境があれば良いのかということを考えていく必要がある。先ほど、家に持ち帰って仕事をする方もいると伺ったが、働きすぎは良くない。学校で職員室が働く環境に相応しいであれば、持ち帰らずにいるような先生と交流しながら仕事を進めているのだらうと勝手に想像して

いる。一方で、部活動や、県や地域の方と一緒に働くシーンがあれば、それは活用する場だと思うので、実際に教職員の端末についてはLTEが入っており、学校ではWi-Fi環境で職員室の中で集中して使っていただけるようになっている。地域に持ち帰ったり、県の方と研修をしたりというところではLTE回線を使って研修等が受けられる状況になっている。これは情報政策課がみなさんの5年後を想像し、働きやすい環境を今、考えられる最大限の形を目指している状況である。5年後を想像し、教職員の皆さんが働きやすい環境が整備されることで、児童生徒と向き合う時間がさらに取れ、集中できるという効果を生むのが一番良いのかなと思う。私共は子供にサービスを届けることはできないが基盤の方から教職員の方にサービスを届けて、届いたサービスを児童生徒の方へ届けることに集中して使っていただけるようにしたい。抽象的で申し訳ないが今からこれを考えようとか、ネットワークが分割されて難しいから一緒にしようとか、ゴールを目指すのではなく、もっと集中するには何を整理して身に付ければ、その次の社会が良くなるのかなと。まだ多少時間があるので抽象的でも良いと思う。課題解決よりもまずは皆さんでどうあるべきか考える機会が大事なのではと考える。

教育長

どんな基盤を整備していくのかということの前に学び方、教え方、働き方をどういう風に変化させていきたいかを考えていくべきなのではという話だった。

五年後に向けて私達はどのように整理を考えていくべきなのか。

浅尾委員

難しい問題だと思う。政策で決めたことがずっと続くか分からないので、もし予算を減らすことがあっても、続けられるようなものを今作っておかなくてはならない。例えば、今はベネッセやgoogleを利用しているが、未来永劫大丈夫なのか、googleが有料になった際に誰が払うのかなど、自分たちでも構築できるようにある程度しておかないといけないのかなと思う。

先生方の負担が大きいのは分かっているので、それを軽減できるようなものをこの委員会で考えていただきたいと思っている。それを他でする場がないと思うのでお願いしたいと思っている。もう一つ気になっているのは協働的な学習というのが難しいと思っている。学校の先生の個人的な能力に一番依存するのは、みんなでディスカッションしたりなどの教科書にないところなので、教材は知識によるものは簡単に出来るが次の世代の子供達を育てなければならない先生方が指導しなくてはならない一番のポイントは知識ではなく、それをどう使うか、ここでいうところの協働的な学習にまともってくるのではないかなと思う。課題をやって解決する、ディスカッションをするというのは先生方の技能によるがその教材を作ることをサポートするシステムを作っておかないと中身がない教育になってしまうのではないか。大学で教員をやっているが教材を作るのはすごく大変である。そこをIT化して、先生方が簡単にできる、思ったような教材ができる環境を変更して作っていくことが5年後を考えると大切なのではないかなと思う。今はドコモとかベネッセとか会社が作ったものを導入すれば済んでいるが5年後はそれでは済まない時代が来るのではないかなと思っている。全先生方の経験値が一番大事で、それをうまくIT化に乗せるということをやっていかななくてはならないと思っている。

教育長

学校訪問で何うと先生方の知識と経験とICTのハイブリットというか非常に上手に使おうとしているなと思う。協働的な学習については、オクリンク等を使い、お互いの意見を言って、合わせて協働的な学習の第一歩

が始まっているなという感があるが、さらに一步進めていけるかと思う。

ITを使っとうまく取り入れながら、ある程度の負担が減っていく内容にしないと難しいのかなと思う。

5 意見交換

前橋市小学校
校長会会長

教職員が研究し、またG I G Aスクール運営支援センターの研修も利用し、子供にとって有効なICTの活用ができればと考えている。

前橋市中学校
校長会会長

今日この会議に出席し、子供達が又は教職員がI C Tを使うにあたって、たくさんの人にご支持いただいていることを改めて感じたところだ。子供達が使って良かったと思う事例を紹介する。2年生が上毛カルタの読み札の所へ学校から出発し、路線バスと電車と徒歩により、太田、富岡、桐生、碓氷峠の関所跡などに班別で行ってきた。班にタブレットを持たせ、地図代わりにするし、電車、バスを逃した時に作戦を立て直す時にも役立った。活動している写真もタブレットで撮り、googleドライブに載せ、共有した。事後指導の際に子供達が体験をまとめるのだが写真を共有しているので教員が移動させたりせずにできるので非常に便利だと思った。それができるのも皆さんのお陰だと思った。引き続き使わせていただければと思っている。

前橋市公立学
校教頭会会長

いろんな方々が携わっていただき、今の環境があるのだなとつくづく思っている。先ほど話にあったネットワークのところ、授業中に止まって、残念な思いをしていたのだがそういったところを整備していただきながら、使い方も教えていただきながら、子供達や先生方が本当に簡単に便利に使えるような環境を作っていただけるとありがたい。そうするとさらに使い方が進んでいくと考えている。L-gateにも期待しており、使い方が進んで起爆剤になっていくと良いと考えている。

青少年課長

青少年課としてはG I G Aスクール構想が始まった時に子供達にタブレットが配られて子供達の生活はどう変わっていくのか、心はどうなっていくのか、問題行動がどう増えていくのかということを実は心配していた。しかしながら大きな影響はなかった。例えばタブレットもネットの制限をかけており、いじめに関しては町田の事件があったが本市においてはセキュリティもしっかりしているのでそういうことはなく、ただ小さいいじめというのはネットの中では起きている。小学校は1%程度、中学校は13%程度で市内においては少ない。ただ警察と話をする時にはSNSのことはサイバー犯罪の課に話をすることになる。ネットのトラブルは小さいうちに摘める部分もあるが、それを飛び越えた時に中程度はなく、大きなものになってしまう。青少年課としては、モラル教室を各学校で行っているのだが、その中で気付くことは、子供達にアンケートを取らせていただいているが、例えば、ネット依存について危険性は分かりましたかとか、より良い使い方をしますか、とか聞くと、中学生は良い使い方をしたいとの回答があるが、小学生の方が中学生より数倍響かないのが事実だ。そう考えると社会体験、生活体験が少ない小学校低学年の段階のうちにしっかりマナーやモラルを身に付ける機会を青少年課としては提案していきたいなと思っている。タブレットによって、ややハードルが低くなってしまったスマホでの危険性の部分、もう一つはICTを使いこなしている人間の魅力というものを今後も5年先も伝えていければ良いなと思っている。

浅尾委員

今日は会議を本当に楽しみして来た。皆さんの話を聞いて、参考になっ

たし、我々大学としてやらなければならないこともあるだろうし、試行錯誤してやっていくのだなと。適宜お互いで情報共有しながらやっていただければ、必ず良いものができると思うので、ぜひお願いしたいと思う。

総務課長

一点皆さんに報告がある。小学校に入っている46インチのテレビについて、教室において見づらいとの意見もあり、長らく大きな物にしたいとのことで、教育振興基金の寄附で賄おうなど考えていたのだが先日、国のコロナ対策臨時交付金で整備が出来そうだとの見通しが立ち、6月議会において予算が通った。今現在、総務課で契約準備を進めており、65インチのモニターが小学校については年度内に入れられる見込みが立っており、現在、進めさせていただいていることを報告する。中学校においては、55インチの物が入っているので、時期を見ていきたいと考えている。

学校教育課長

教育委員会として、先生方がタブレットを使いやすいように、教頭会会長から話があったように、簡単にそして便利に使えるようにという話があって、教育委員会としてもそのようにやっていこうという気持ちを持っている。ある先生と話をした時に、一年間とにかくタブレットをとにかく触って試したと。今年はどうかと尋ねたところ、どうやったら子供達により考えが深まる授業ができるかということを考えて使うようにしたという話を聞いた。本当にありがたい話だなと感じた。その先生が全部の授業にタブレットを使っていたのだが、これはタブレットでなくても良いなという場面は使わず、効果的な資料提供をする、協働的な学びをする時にはオクリンクやジャムボードを使おうとかなど、自分の中で整理をしながらやっているという話を聞いた。先ほど浅尾先生がおっしゃっていた次のフェーズに行っているのだなということ強く感じている。その中で先生方の、ここはまだ足りない、難しいだろうという部分をプラザが1コマ1コマ短い研修を、情報教育推進室もタブレットの資料の紹介など、指導係も授業での効果的な使い方を「まえばしGIGAサポートサイト」にアップしている。中々現場に浸透されていないと感じており、そこで情報政策課にお願いして、先生方のタブレットのChromeを立ち上げたら、まずこのサイトに繋がるようにした。教育委員会で情報提供しようというものをここにアップしていきたいと思うので、使っていただきたい。先生方の多忙化解消ということで、タブレットをどう使うかということもこの会議で話ができありがたいと思っている。

指導担当次長

先日小学校の計画訪問で社会科の授業を見せていただいた。定年退職されたベテランの先生で久しぶりに見せていただいたが、私が10年前に見せていただいた平成20年頃は、授業の中で話し合い活動を入れていこう、話し合ったことをホワイトボードに書いて掲示してみんなで共有しようという授業づくりが進んでいた。10年間、前の学習指導要領の時に先生方は言語活動の充実を目指して、討論するなどの授業づくりに努めていた。ベテランになれば染みついたものをすぐに変えるのは難しいのだろうなと思っている。新学習指導要領では、主体的・対話的で深い学びを目指すことになっても、以前、拝見した時と同じような授業づくりの流れの授業だった。しかし、何が変わっていたかということ、子供達のグループになった机の上にタブレットがあり、話し合うための資料もタブレット内にある。ベテランの先生の授業の中でそこまでやっていただいているのだなと思った。先ほど話にあったオクリンクやジャムボードで作業してまとめていくというところはなかったが、ホワイトボードのようなものに子供達を書いて、それを共有するような流れだったが、ベテランの先生方は10年間やってきたものについて、それを全く新しいものにしていくに当たって、いかにタブレットという道具を上手に活用して、子供達の

学びを豊かにしていくかという事にチャレンジしていただいているのだと思う。チャレンジというものの度合いが人によって違うと思うが教育委員会がバックアップしていきたいと思う。子供がタブレットを持っていかにチャレンジするか、教育委員会も学校も子供達にタブレットを渡して、子供達が主体的にタブレットを使う場面をいかに担保してあげられるかなと、そこが今後の課題になっていくのではないかなと思う。今日の資料の中でも協働的な学びについては非常に数値が高かったが個別最適化の学びについてはまだまだだと思う。これにはいろんな理由があると思う。GIGAスクール構想の中で、やはり目指すのは個別最適化の学びが先に取り扱われてくるので、個別最適化の学びについて、私たちがどう捉えていくのかそれを明確にしていけないと学校現場でどう取り組んでいくのかが出てこないと思う。個別最適化の学びをどうしていくのか、ただ学校現場では個に応じた指導、先生方は子供達一人一人に応じた指導をしていくということは染みついている。ただ、視点が変わって、主体となるのは子供なのだから、子供が自らやっていく個別最適化の学びというのをどうしていくのかという事を私達が明確にしていきながら、現場の先生方に示していければなと。そういったことをしないと数値は上がっていかないのだろうなと思った。まだやらなければいけないことはあるが確実に歩みは進んでいると感じているので、皆様のお力をお借りしながら、進めていきたいと思う。

教育次長

教育委員会としては多忙な現場の先生方をいかにサポートして、GIGAスクール構想を進めていけるかというところもあるが、本日は話を伺った中で、サポートする教育委員会の方も研修のメニューなどを作ったが、実際多忙な先生がどういうタイミングでそれを見ることができるとか話を聞いていて思った。教育委員会も情報政策課も、現場の皆さんの声をいかに吸い上げて、それをフィードバックできるようにできるかが重要だ。先ほど、授業中にタブレットが動かなくなってしまう時もあると伺ったが、教育委員会にどれだけデータとして上がってくるか、それを拾って改善できるか、そのために我々がいかに学校現場の声を吸い上げるための何ができるかなと、話を聞きながらどのようにサポートしていけば、さらに実施して進めていけるかなと思った。確かに学校の先生は大変だと思うし、社会的にも職務が大変だと言われている中で、タブレットを導入して取り組んでいただいている。教育委員会がどのようにサポート、バックアップしていけるか、しっかりと検討して参りたいと思う。教育委員会として、GIGAスクール構想を進めるに当たって、いかにして現場の声を聞いて、現場と一緒に改善して進めていけるか、皆さんの話を聞き、考えさせられた。

教育長

コロナがあって、学校が新学習指導要領になり、本当に大変な1年だったと思う。学校のチャレンジと教育委員会もチャレンジをサポートするようチャレンジをしてきた。小さなトラブルや皆様の意見をしっかりと捉えて、改善をして進んでいきたいと思っている。ICTとの向き合い方というのは、これから難しい場面もあるかなと思うが後戻りすることは決してないと思う。ICTのある社会の中で子供達にどう育ってほしいのか大人がしっかりと考えていかなければならないと思っている。デジタルの中で生きていくデジタルシチズンシップをどう育てていけばいいのかを皆様のご意見をいただきながら、考えていきたいと思う。

第2回ではいろいろな進捗状況が報告できたら良いと思っている。

(午前 11 時 50 分)